令和4年度

一宮小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①自ら考え，主体的に学習に取り組む授業の実践
②考えを伝え合い，学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 阿部　玲子	委員　教頭：髙木修（支援）　教務主任：荒木哲夫 特別支援教育コーディネーター：大知晶子（支援） 2年：津田宗宏　3年：豊川歩己　5年：松浦美沙紀 6年：梶谷基信　養護助教諭；山下愛莉

校長

徳永　　啓牟　　印

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

教員からの報告や提案，テスト，学校評価アンケートの結果等を元に，定期的に取組状況の情報交換・見直しを行う。

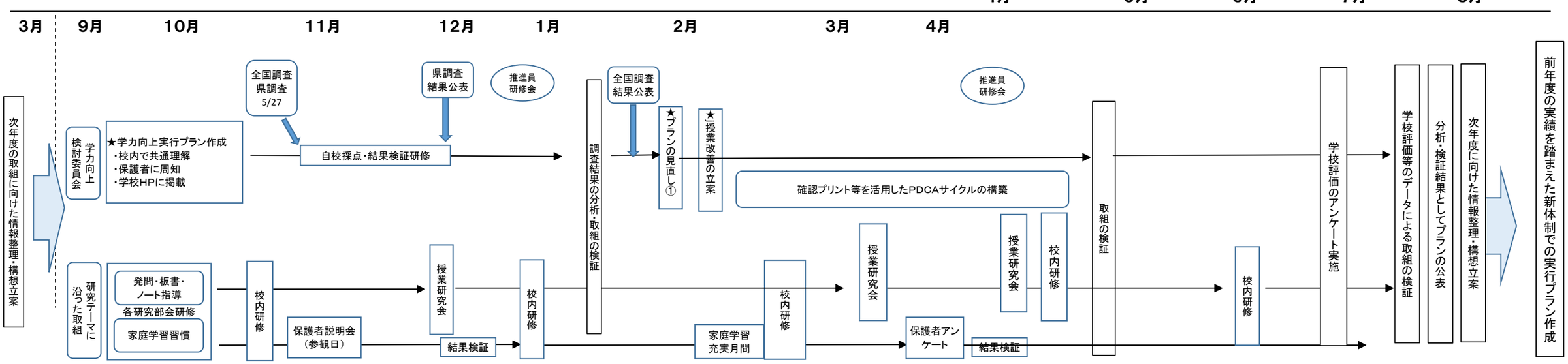
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○真面目に学習に取り組む児童が多く，基礎的な読み書き・計算の力がついてきている。 ●文章を正確に読み取ったり，学んだことを活用することに課題がある。	・学年に応じた，読み・書き・計算の基礎的な力を確実に身に付けることができる。単元テストで，下学年は80点以上，上学年は70点以上が80%を維持する。 ・既習の内容を思い起こし，次の学習にや生活の場で生かすことができる。	・漢字計算テストを定期的に実施する。 ・家庭学習の仕方・時間について保護者の協力を得たり，タブレットを持ち帰っての学習の工夫をしたりする。 ・児童が既習の事項を生かすことを意識するような発問を工夫する。	・朝の活動を，漢字や計算の復習の時間にあて，理解が不十分なところのドリル学習を行う。 ・個に応じた家庭学習のスタイルと時間を確実に確保したり，タブレットを活用したりする。	・単元のテストでは正答率がどの学年も80％以上になっている。学習直後の理解度は上がるが持続しない。 ・算数の自力解決力に個人差がある。 ・音読の宿題を真面目に行わない児童が多く，読みに苦手意識がある。	・朝の活動で，漢字や計算の復習の時間を確保する。 ・学習したことの定着を図るための学習の質と時間を確保したり，ドリル学習を工夫したりする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○教師や友達の話を聞く態度が身についてきた。 ●自分の考えを自分の言葉で表現したり，情報を交換しながらよりよい考えを練りあげたりすることに課題がある。	・自分の意見を理由をつけて書いたり話したりすることができる。 ・「わたしは，相手に分かりやすく書いたり話したりできる」（学校評価アンケート）の割合を70％以上にする。	・学年に応じた話す・聞くスキルを指導する中で，自分の考えに理由をつけて話すことを繰り返し指導する。 ・各教科や生活の指導の中で，友達の話を聞き，より深い考えに気づいたり，伝えたりする機会を意図的に設ける。	・自力解決の時間を確保した後，解決の方法を友達同士で話し合いを行う。 ・内容の中心になるキーワードに線をひかせたり，論理的な組み立ての作文を書くように促す。	・内容の中心になる部分やキーワードを見つけられると，要点をノートにまとめることができた。 ・友達の話を聞き，質問することを繰り返すことで，少しずつくわしい話ができた。まだ表現が苦手という児童もいる。	・授業中に対話や振り返りの時間を確保し，お互いの考えを聞き合いより深い考えに気づいたり伝えたりする機会を意図的に設ける。 ・安心して話したり聞いたりできる環境作りを行う。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○指示されたことや与えられた課題に，真面目に落ち着いて取り組む。 ●課題に対して受け身で，計画的に取り組み解決することや難しいことに粘り強く取り組む意欲に乏しい点に課題がある。	・学習準備をきちんとして，めあてをもって生き生きと学習に取り組むことができる。 ・学習状況を振り返り，課題解決できるように計画を立てることができる。	・本時のめあてをはっきりさせ，児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・子どもが興味関心をもって取り組めるような発問や，学習の振り返りができるノート指導等を工夫する。	・その時間の学習の流れを示し，学習の見通しをもたせる。具体的に何ができれば終わるかという見通しを示し，粘い強く取り組めるようにする。	・興味を持って取りかかるが，集中を持続して作業を行うことが難しい。粘り強く取り組むことができるように，対話を増やす。課題解決のためのノート指導は振り返りに役立てた。	・ ICT の活用方法の研修を行い，児童が自ら課題をもって学習に取り組めるようにする。 ・振り返りの内容を充実させ，児童が達成感をもてるように工夫する。

令和4年度　学力向上ロードマップ